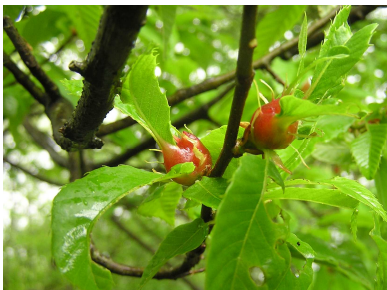


県民の森 虫のすみかを探してみよう！

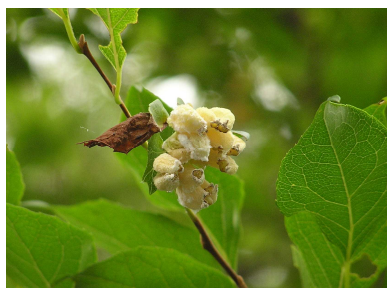
～ 自然発見マップ ～



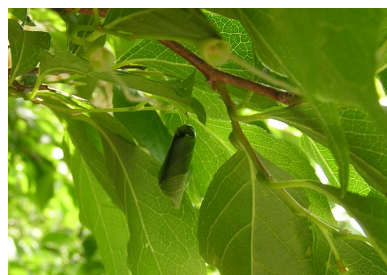
クリタマバチによる虫えい。
クリの新芽が異常に大きくなっています。
クリタマバチはクリの新芽に寄生する小さなハチで、1940年頃、中国から侵入してきました。6～7月に羽化します。
〈写真：県民の森5月〉



ナラメイガタマバチによる虫えい。
コナラの芽が、いが状になっており大きなイガイガどんぐりにも見えます。
ナラメイガタマバチは5月に羽化。写真は地面に落ちていたコナラの枝で見つけたもの



エゴノネコシアブラムシによる虫えい。
エゴノキの芽につくられ、その姿はまるでネコの足先のよう。足指のように見える部分はそれぞれ独立した虫室。
〈写真：県民の森7月〉



エゴツルクビオトシブミのゆりかご※
オトシブミやチョッキリの仲間は植物の葉を巻いて、中に卵を産み、幼虫はしおれた葉を食べて育ちます。
〈写真：県民の森5月〉
※異常発育しているわけではないので虫えいとは呼ばない。

木の葉や枝を観察していて、おやっ？と思うような変なものに出会ったことはありませんか？それは葉や枝にこぶがついていたり、芽が異常に大きかったり...

なぜ、このようなことがおこるのでしょうか？

実は、それらは虫のしわざなのです。

それらの中には虫が入っていることが多く、虫えい（虫こぶ）と呼ばれています。虫えいは、新しくでた芽や葉、茎などに虫たちが産卵・寄生したために異常発育してできます。（昆虫だけでなく、例外もあります。）虫えいを作る虫はタマバチやタマバチ、アブラムシなどで、作られる植物はブナ科・キク科・ヤナギ科・バラ科・クスノキ科に多いそうです。5～6月は虫えいがめだちはじめる季節。美しいものもあれば、不気味なものもある。



ナラメリンゴタマバチによる虫えい。
コナラの芽につくられ、その姿はまるで青リンゴのよう。赤褐色の場合もあります。
中身はスポンジ状で、虫室が放射状に配列しています。（右写真）



ナラメリンゴタマバチによる虫えいの中身。中身までリンゴに似てる？

